

令和4年度宮沢賢治イーハトーブ館運営審議会会議録

1 開催日時

令和4年7月22日(金) 午後1時30分～午後2時45分

2 開催場所

宮沢賢治イーハトーブ館 講義室

3 出席者

(1) 委員

出席委員(7名)

大沢正善委員、佐藤竜一委員、木村清且委員、大山拓詞委員、牧野幹委員

小原節子委員、岩田行平委員

欠席委員(3名)

浅沼利一郎委員、玉山領一委員、押切和美委員

(2) 事務局(4名)

市川生涯学習部長、岡村館長、佐々木副館長、晴山主任専門員

4 傍聴者

0名

5 次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 会長選出

(4) 議事

①令和3年度宮沢賢治イーハトーブ館事業報告

②令和4年度宮沢賢治イーハトーブ館事業計画(案)

(5) その他

(6) 閉会

6 議事録

各委員の発言要旨は以下のとおり

発言者	発言要旨
佐々木副館長	<p>定刻となりました。</p> <p>本日はご多用中にも関わらず、ご出席いただきありがとうございます。開会に先立ちまして、本日もご出席の委員の皆様をご紹介します。（以下、委員及び事務局紹介）</p> <p>本日の運営審議会につきましては、委員10名中、7名の委員に出席いただいております。宮沢賢治イーハトーブ館管理運営規則第7条第2項に規定する半数以上の委員が出席しておりますので、本日の運営審議会は成立することを報告いたします。また、本運営審議会は、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、原則として公開するものであり、会議結果は会議録を含め、花巻市のホームページに公表いたします。会議録につきましては、事務局で作成したものを皆様に郵送し、確認いただいたうえで公開しますので、よろしく願います。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、マスクの着用をお願いしておりますほか、会議の途中で窓を開けて換気を行うことがありますので、あらかじめご了承願います。それでは、ただ今から、宮沢賢治イーハトーブ館運営審議会を開会いたします。開会にあたりまして、岡村館長よりごあいさつを申し上げます。</p>
岡村館長	<p>本日はお忙しい中にお集まりいただきましてありがとうございます。私もできれば会場に参加したかったのですが、コロナ拡大ということもあります。ついさっきまで法政大学江戸東京研究センターの運営委員会がありまして、私はそのプロジェクトリーダーという責任者をやっているのですが、そちらに出席せざるを得ませんでした。4月以降、コロナが落ち着いてきて観光客も増えて非常に良いことだと思っております。それで4月23日に高畑勲さんのセロ弾きのゴーシュ追悼上映会を宮沢賢治学会で催しましたが、その時に3年ぶりぐらいで花巻、岩手県を訪れました。7月初めにも今イーハトーブ館でやっている沢村澄子さんの書展を見るために訪れましたが、ご存知のように、それ以降、夏休み直前になってコロナ感染が急拡大して、今、岩手県では1日970人ぐらいで1,000人に迫る勢い、宮城県は2,000人を超えていますし、東京はもうすぐ3万人に達しようとしています。明日には子供向けのワークショップが予定されているので心配しています。花巻におられる方はすでにご覧になられたかもしれませんが、今やっている“宮沢賢治－沢村澄子 現象的書展”は、おそらくイーハトーブ館が始まって以来のイーハトーブ館の外と内とを型破りな使い方で活用した展示になっていまして、しかもすべての作品は周囲の環境や館内の設備を沢村さんが調査したうえで、そこにふさわしいように新たに書き下ろしたものでして、多くが展示終了とともに破棄されてしまう、あるいは考えてみないとあまり意味がなくなってしまうという、現代アートというサイトスペシフィックなインスタレーションという形式をとっているのです。この機会にぜひご覧になっていただきたいと思います。今後のイーハトーブ館の運営の仕方にも関係する部分があると思います。とにかく、しばらくは感染者数が増加することが間違いないようですが、当館が再び閉館にならないことを祈るしかないと思います。以上でごあいさつとさせていただきます。</p>
佐々木副館長	<p>続きまして、市川生涯学習部長よりごあいさつを申し上げます。</p>

市川生涯学習部長	<p>皆さんこんにちは。今日はお忙しいところご出席をいただきましてありがとうございます。こちらは今、雨が降っておりますが、沢村澄子さんの展示は雨の中でもいい感じだなと見てきたところでございます。先ほど学会の代表理事でもおられます岡村館長のお話にありましたとおり、インスタレーションとして、今までの展示とは違った、美術館的な雰囲気を出している展示で面白いなと思っております、もっとPRしていきたいと思っておりましたところなのですが、このとおりコロナウィルスの感染拡大ということになっておりまして、実は今日も急遽3時半から対策本部会議が開催されることになりました。岩手県でも今日の夕方に本部会議を開くという情報がありまして、コロナウィルスの急激な感染拡大によって閉館することにならないか非常に心配しております。隣の童話村では明日から童話村の森ライトアップが始まります。これもかなり宣伝しております、注目されていますが、保健関係の担当部署と対応について毎日のように相談しながら進めているところで、非常に苦慮しているというのが本音でございます。そういう中で、イーハトーブ館や賢治記念館もいろいろと企画して努力しているところでございます。本日は事業の説明をさせていただいて、皆様からのご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。</p>
佐々木副館長	<p>ありがとうございます。それでは次第の3. 会長選出に移らせていただきます。宮沢賢治イーハトーブ館管理運営規則第6条第2項に会長は会議の議長となると規定しておりますが、委員が替わりまして初めての審議会ですので、会長が決まるまでの間、市川生涯学習部長が進行をさせていただきます。市川部長よろしくお願いたします。</p>
市川生涯学習部長	<p>それでは、会長が決まるまでの間、私が進行をいたします。これより会長の選出に入りますが、選出方法について、いかが取り計らいましょうか。ご意見がありましたらお願したいと思います。 （「事務局案」との声あり） ただいま、事務局案という声が出ましたが、よろしいでしょうか。 （「異議なし」との声あり） それでは事務局お願いたします。</p>
佐々木副館長	<p>事務局といたしましては、木村清且委員を会長に推薦したいと考えております。</p>
市川生涯学習部長	<p>ただいま、木村清且委員を会長にとの案が出されましたが、よろしいでしょうか。 （異議なしの声あり） それでは皆様のご承認をいただいたということで、木村清且委員を会長にお願したいと思っております。以降の進行は木村会長にお願いたします。</p>
木村会長	<p>ただ今ご指名をいただきました木村清且でございます。よろしくお願いたします。はじめに、職務代理者を指名したいと思っておりますが、このことにつきましては、宮沢賢治イーハトーブ館管理運営規則第6条第3項において、あらかじめ会長の指名する委員が職務を代理すると規定されているところでございます。今回は大山拓詞委員を指名させていただきます。大山委員、よろしくお願いたします。それでは、次第に従いまして、議事に移らせていただきます。最初に、（1）令和3年度宮沢賢治イーハトーブ館事業報告について、事務局から説明をお願いします。</p>
佐々木副館長	<p>それでは、（1）令和3年度宮沢賢治イーハトーブ館事業報告について</p>

を説明いたします。皆様には、あらかじめ資料をお送りしておりますので、要点を絞って説明させていただきます。資料は1ページ、1施設整備事業です。令和3年度はご覧の5件の施設の整備、修繕を行いました。イーハトーブ館は平成4年9月の竣工でして、今年で30年が経過する建物です。平成27年度から平成30年度までの間に、屋上防水工事ですとか外壁修繕工事といった大規模修繕を実施しております。近時においては、資料記載のような施設内設備や外構を中心として修繕あるいは更新を実施しているところです。次に、2資料収集・保存・公開です。令和4年3月31日現在の資料数は資料記載のとおりですが、書籍、論文等の図書資料は前年度より291件の増、DVDやCDなどの映像・音声資料は前年度と同数、新聞は前年度より198件の増となっております。次に、3宮沢賢治関連資料の受贈ですが、滝田恒男さんから宮沢賢治をテーマにした絵画100点を寄贈いただきました。滝田さんについてはご存知の方も多いかと思いますが、詩画集『風の巡礼』の刊行や、それまでの宮沢賢治精神の普及活動を讃えられ、平成6年度に第4回宮沢賢治イーハトーブ賞奨励賞を受賞しております。寄贈いただいた絵画は、有意義に活用するよう検討してまいります。また、来る8月1日に、なはんプラザにて花巻市感謝状贈呈式が開催されますが、滝田さんも被贈呈者となっております。次に、4企画展示の開催です。令和3年度には、ご覧の5件の企画展を実施いたしました。いずれも、チラシやポスターの配布のほか、花巻市ホームページや宮沢賢治イベントカレンダーに掲載するなどして周知を図ってまいりました。それぞれの開催期間中の来館者数について補足いたしますと、1番目の安藤徳香「やまなし」原画展は2,578人、2番目の東日本大震災10周年特別企画「3・11東日本大震災の記憶・陸前高田」は2,826人、3番目の宮沢賢治とオノマトペは4,801人、4番目のイーハトーブの風景 亀澤裕子押し花展Ⅱは2,112人、5番目の賢治さんの世界を描く絵画展は1,444人となっております。なお、3番目の宮沢賢治とオノマトペの開催期間中だった8月14日から9月24日までの42日間にわたって、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために臨時休館としたことを申し添えます。資料2ページをご覧ください。5企画展示関連行事です。1件目の講演会、「3・11東日本大震災の記憶から学ぶ防災について・陸前高田編」は50名の方に参加いただきましたほか、令和4年1月15日に開催した2件目のワークショップ、「賢治さんの世界を描く絵画展」に出品しませんかは13名の方に参加いただきました。こちらのワークショップについては、1月29日に2回目を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が急速に感染拡大したため中止といたしました。次に、6第31回宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の選考及び贈呈式です。こちらの事務の主管課は、賢治まちづくり課となっておりますが、受賞者は宮沢賢治学会イーハトーブセンターとの諮問・答申を経たうえで決定されたものです。ご覧のとおり、宮沢賢治賞1名、イーハトーブ賞1名、イーハトーブ賞奨励賞1団体の計2名、1団体の受賞となりました。なお、贈呈式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一般の方の参加のない形での開催となりました。資料3ページをご覧ください。7調査研究は、宮沢賢治記念館や宮沢賢治学会イーハトーブセンターのご協力をいただきながら行ってまいりましたし、8セミナー・研究会等につきましては、資料記載のとおり、予定していた3つを実施することができました。セミナーや研究会といった事業は、コロナ禍以前はイーハトーブ館にお集ま

	<p>りいただいて開催していたところですが、コロナ禍においては多人数にお集まりいただくことが難しいこともありましたので、YouTubeですとかZoomを活用しながら開催いたしました。コロナ禍における開催のあり方を模索しているところです。資料4ページをご覧ください。9 ホール・講義室の活用については、資料記載のとおりです。コロナ禍における少人数の限られた利用で、主に市の内部的な活用にとどまりました。10 シャトルバスの運行につきましては、交通整理を行う警備員の配置とともに毎年実施しているものです。ゴールデンウィークや夏休み期間、さらには賢治さんの命日である9月21日前後の胡四王山周辺の賢治関連施設にとっての繁忙期に対応するためのものとして準備しておりましたが、先述のとおり8月14日から9月24日までの42日間にわたって臨時休館となったため、ゴールデンウィークや夏休み期間の前半だけの実施にとどまりました。最後となりますが、資料5ページをご覧ください。11 令和3年度宮沢賢治イーハトーブ館入館者数です。表の中段に太書きにしておりますとおり、合計で13,715人となりました。令和2年度は15,699人でしたので、1,984人の減少、率にして12.6%減少したことになります。こうした傾向は、イーハトーブ館だけではなく、周辺の宮沢賢治記念館や宮沢賢治童話村でも見られることなのですが、コロナの感染拡大が続き、全国的に人の流れが鈍化したことに加えて、繁忙期の42日間にわたる臨時休館が大きく影響したものであると思われまます。参考までにですが、本年度に入ってから4月から6月までの3か月間の入館者数は6,092人でして、令和3年度の同期間の3,346人と比べて2,746人の増と、倍近く増加しています。宮沢賢治記念館や宮沢賢治童話村でも同様でして、人の流れが戻ってきたように思われますが、ご承知のとおり、コロナウィルスが感染拡大している状況ですので、今後とも感染対策をしっかりと行ってまいりたいと考えております。令和3年度宮沢賢治イーハトーブ館事業報告につきましては以上のとおりでございます。よろしくお願いたします。</p>
<p>木村会長</p>	<p>ただいま、事務局から説明がありました。ご質問、ご意見等があればお願いたします。 (声なし) それでは、本件について承認することとしてよろしいでしょうか。 (「異議なし」の声あり) ありがとうございました。本件は承認されました。続きまして、(2)令和4年度宮沢賢治イーハトーブ館事業計画(案)について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>佐々木副館長</p>	<p>それでは2件目の(2)令和4年度宮沢賢治イーハトーブ館事業計画(案)について説明いたします。資料は6ページです。はじめに1 施設・設備整備事業につきましては、資料のとおり4件の施設・設備の更新や修繕を行うこととしております。次に、2 資料収集・保存・公開ですが、引き続き宮沢賢治記念館や宮沢賢治学会イーハトーブセンターのご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えております。3 企画展示の開催につきましては、宮沢賢治学会イーハトーブセンターに委託して開催しているものですが、資料にありますとおり4件を企画してございまして、1番目の「宮沢賢治とエスペラント展」は実施済み、2番目の「沢村澄子展」(現象としての宮沢賢治)については10月10日を最終日として開催中でございます。残る2件につきま</p>

	<p>しても、詳細が定まり次第、情報発信に努めてまいります。開催期間につきまして、3番目の「イラスト展 ひかるの世界」は、令和4年10月15日の土曜日から令和5年1月20日の金曜日まで、4番目の「賢治さんの世界を描く絵画展」は、令和5年1月22日の日曜日から3月31日の金曜日までの期間に行うことになりましたことを報告いたします。4 第32回宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の選考及び贈呈式につきましては、本年度の受賞者の決定に向けて、宮沢賢治学会イーハトーブセンターにご協力をいただきながら選考作業が進められております。贈呈式は令和4年9月22日に、なはんプラザにて開催される予定です。5 調査研究については、本年度も宮沢賢治記念館や宮沢賢治学会イーハトーブセンターのご協力をいただきながら進めてまいります。資料7ページをご覧ください。6 セミナー・研究シンポジウム等につきましては、4つの企画を計画しておりますが、1件目の春季セミナーは、去る4月23日に開催いたしまして、76人の参加がありました。他のセミナー等については、詳細を調整中のものもございますが、定まり次第、随時情報発信に努めてまいります。最後になりますが、7 その他の事業・会議等のホール・講義室の活用につきましては、コロナウィルスの感染拡大状況に注視しつつ、状況に応じた対応していかざるを得ない状況でございます。感染対策を徹底し、でき得ることについて対応してまいりたいと考えております。令和4年度宮沢賢治イーハトーブ館事業計画につきましては以上のおりでございます。よろしくお願いたします。</p>
木村会長	事務局から説明がありました。ご質問、ご意見等をお願いします。
岡村館長	ちょっと訂正という形になると思いますが、3 企画展示の開催の②、今やっている書展のタイトルですが、“「沢村澄子展」(現象としての宮沢賢治)”というのは計画の途中段階のものでして、最終的には“宮沢賢治－沢村澄子 現象的書展”になっているので、ここの訂正をお願いしたいと思います。
木村会長	ありがとうございます。ほかにございますか。
大山委員	イーハトーブ館ができて30年ということですが、今後予定される大規模改修はあるのでしょうか。それとも、この整備事業というのは単発的な事業の羅列なのでしょうか。大事な施設ですので、将来を見通した長期的な展望に立った計画がありましたらお知らせください。よろしくお願いたします。
木村会長	事務局、説明をお願いします。
佐々木副館長	結論から言いますと大きな部分の改修は実施済みと認識しています。したがって、公共施設マネジメント計画に今後実施予定の大規模改修は記載しておりません。しばらくは階段などのクラック修繕ですとか設備の更新を行っていくこととなるかと思っております。
大山委員	基本的に、しばらくは単発的な故障箇所に対応していくスタンスということではいいですか。
佐々木副館長	そのとおりです。
木村会長	ほかにございますか。
牧野委員	要望といいますか、これまでのことも踏まえてのことなのですが、賢治さんの世界を描く絵画展が、多分今年で3回目の開催に向けて動いているところだと思います。昨年度は1回しかワークショップを開催できなかったのですが、参加者が13名ということでした。今年の日曜日にも今年度分のワークショップを開催するというので準備をしているところなのですが、今現在の参加者が9名と聞きました。参加

	<p>者が段々と少なくなっていることに、ちょっと不安を覚えているのが現実です。賢治さんの作品を子供たちが受け止める機会は結構あるのですが、受け止めたものを発信するというか、表現するという場がそれほど多くあるようには思えないので、この賢治さんの世界を描く絵画展は非常に貴重だなあと考えています。それで、何とかこの先も長く続けていけるように、多くの子供たちに参加してもらえそうな手立てをとっていただければと思っています。要望です。</p>
市川生涯学習部長	<p>コロナの影響もありまして、子供たちが参加するイベントを大きく募集できない中でいろいろやっているという現実がございます。童話村の森ライトアップでは、子供たちにライトアップするオブジェを作ってもらおうという企画を行っていますが、もともとはみんなが集まってオブジェを作っていたのですが、去年と今年はオブジェのパーツを自宅に持ち帰って作成してもらって、できたものを集めて作品として照明をつけて展示するという形で行っています。子供たちだけでなく親御さんたちもいろいろとやりたいという気持ちはあるのですが、コロナは今、小学生、中学生、若者たちにも広がっている状況で、しかも次々と変異種というかわ変わっていきますものですから、状況を見ながらどのようにワークショップをしていけば良いか実施される方々とも相談しながら、工夫してやっていければ良いかと思っています。</p>
小原委員	<p>牧野さん、コロナ前はどのぐらい参加者があったのでしょうか。</p>
牧野委員	<p>ちょっと今、資料がないのですが、作品として集まったのは100点を超えたのではないかと思います。実際にそのワークショップに参加しなくても、賢治にゆかりのある小学校とかが多いので、その学校の協力をいただきながら、まとまった数の絵画などが集まったのですが、去年は1回目よりもちょっと少なくなったと思います。このコロナで開催すら危ぶまれるような状況の中で人が集まらないというのはそのとおりだと思うのですが、何とか学校の協力をいただきながら多くの人に見ていただきたいと思うところです。</p>
小原委員	<p>宮沢賢治については、若い人たちに、若い時期にもっと知ってほしいと思います。コロナのために、参加者が少ないというのはもったいない話ですよね。コロナ禍だけでも、そういうすばらしいイベントが何か工夫することによってできるよう、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
岡村館長	<p>コロナ対策という点では多少参考になるかと思ったのが、資料3ページの③で“オンライン講座 宮沢賢治で卒論・修論書いてみる？”というものがあります。これは予定していた対面をやめてZoomにして、対象はもちろん子供たちではなくて大学生から大学院生だったのですが、30名という驚くべき人数が受講しました。好評だったので今年の秋もやることになっています。絵を描いたりするワークショップですと、会場に結構大きなモニターを設置したりとかすれば、何をどう書いてあるのかが同時に見て指導できますし、子供たちのほうからもパソコン越しで講師の声とか絵の指導とかが見られます。オンラインだけっていうとつまらないかもしれませんが、両方を活用して対処するというのも考えられますよね。今の話は絵画ということで絞っているわけですから、ちょっと話が別になるかもしれませんが、若い世代とか子供たちの関心でと言ったら、例えば宮沢賢治を漫画にしてみるとか、岩手県は漫画家が多くて漫画をめぐるまちおこしを相当やっていますし、コミックいわてなどに宮沢賢治のことをいろいろ漫画にしている人もいます。作品世界の中を漫画にするだけではなくて、</p>

	ある程度2次創作をするとか、あるいは宮沢賢治の伝記を少し漫画にするとか、そういうコミカライズなんかもできるのではないかと、ちょっと聞いていて思いました。以上です。
木村会長	はい、ありがとうございます。漫画については面白そうですね。ぜひ、検討していただきたいと思っております。余談ですが、今年は賢治の妹トシの没後100年にあたります。7月11日にトシの母校である県立花巻南高校で、トシに関しての講話を望月善次先生に行ってくださいました。60人の生徒さんが非常に熱心に聴講しておられたのですが、最後にトシをしのんで校歌を歌おうと先生が提案されましたら、生徒たちが歌えないのです。みんなで集まって声を出すということができない中にあるので、こういう弊害が起きているのだなと感じました。そんなこともあります、何とかコロナを乗り越えられるようなアイデアを出しながら計画をしていけば、すばらしいものができるのかなと思っております。ほかにどなたかございますか。
佐藤委員	今、ワークショップについて話が出ましたが、差し迫って明日、沢村澄子展に関するワークショップが開かれる予定でして、私は企画委員会の委員長なのですが、企画委員会からも助太刀として何人か行く予定なのですが、実際のところ開催はできますでしょうか。今何人ぐらい参加予定なのでしょう。晴山さんがいらっしゃるので、ちょっとその辺確認しておきたいと思っております。
晴山主任専門員	ワークショップは開催する予定でして、6名の応募がありました。明日は雨との天気予報も出ていますが、当初の計画どおり外で実施したいと考えております。以上です。
佐藤委員	はい、ありがとうございます。
木村会長	ほかにございますか。
大沢委員	どこでお話ししようかと思っていたのですが、私もそうなのですが、賢治学会でも白髪の人たちが増えてきて、若い方たちが少し手薄になっていて、今日お集まりの方たちもやはりある程度年齢が上がった方たちになっているようですが、学会も何か若い方を発掘する、あるいはどうバトンタッチしていくかを本当に考えなきゃいけないなと思っております。先ほど小学生の話も出ましたが、小学校、中学校、高校、要するに子供たちだけではなくて、子供たちに賢治の魅力を伝える先生たちにももうちょっと頑張ってもらって、そして賢治に興味を持つ子供たちが増えて、そして学会も、こちらのイーハトーブ館に集まる方たちも、少しずつ新しいエネルギーをもらえたらいいなと思っております。先ほど木村さんから話が出たように、今年はトシの没後100年ということで望月先生がお話をされたということでしたが、こういう機会をうまくPRして、子供たちだけではなくて市民も、それから教員にも興味を持ってほしいなと思っております。今年がトシの没後100年だとすると、来年はやまなしが新聞に発表されて100年、それからは春と修羅の刊行、注文の多い料理店の刊行が100周年を迎えるというところ。没後とか生誕ということだけでなく、そういった機会を捉えて、賢治に対する興味、親しみを喚起できたらいいなと思っております。ちょっと長くなりましたが、そう感じております。
木村会長	はい、ありがとうございます。ぜひそれはやったらいいかと思っております。ほかにございますか。
大山委員	今日は岡村代表理事もいらっしゃるのでちょっとPRになるかもしれませんがお話させてください。実は地元の富士大学で、去年から宮沢

	賢治を考えるとという公開講座、大学生・若い人たちに向けてのPR、あるいは啓蒙も含めてなのですが、そういった授業を4月から7月頃にかけてやっていました。先ほどお話のありました望月先生による没後100年のトシに関する講義も行っていただきましたし、木村さんからも宮沢賢治とまちづくりというようなことで講義を行っていただきました。私は今、花巻ケーブルテレビに勤務していますが、ケーブルテレビでもその内容を放映できるように富士大学と連携して進めています。地道な活動ですが、賢治ファンの1人としてそうしたことを積み重ねながらやっていきたいと考えておりました。
木村会長	私は90分も持つかないと思っていたら、3分の1ほど話ただけで90分になって、少しやり過ぎたかなと思っていました。ありがとうございました。ほかにございますか。
小原委員	宮沢トシさんの没後100年とか、そういうイベントにも注目というか周知することはやはり何か必要なことなのでしょう。宮沢賢治という方はもちろん素晴らしいと思いますが、そのご兄妹のトシさんは永訣の朝とか、賢治さんの身内ということですが、トシさんまで没後何年とか、そういうイベントをしなきゃいけないものなのかしらと、ちょっとお聞きしていて……。本当に単純な質問ですけど、だったら清六さんはどうなのかとか……。
木村会長	どなたかお答えいただけますか。
市川生涯学習部長	では、私が言える範囲となりますが、トシさんについては望月先生とですね、木村さんもですが、民間主体の実行委員会が顕彰活動ということでやっておいでです。永訣の朝はトシがいなければ生まれない作品ですし、賢治の作品にトシが重要な影響を与えたであろうことは、これまでの研究の中で皆様もそう思っていることと思います。そうしたうえで顕彰、あるいはどのような生涯だったのかというところを研究されることは意味があるのだろうと市としては考えています。当然、清六さんも影響を与えているわけで、イーハトーブ館でも清六さんについて企画展をしたこともございます。トシについても、ある程度といいますか、顕彰とまで行くかどうかはわかりませんが、賢治に影響を与えた1人と捉えるべきだろうと私は思います。今回の顕彰事業は民間の方々が主体となって頑張っておいでなので、市としても支援していきましょうという形ではあります。
小原委員	確かに影響を与えて、すごい作品が生まれたわけですけど、トシさんの没後何年まで、何かイベントするということにつながるのでしょうかと、単純な質問でした。
岡村館長	大沢さんが多分言おうとしていたのだろうと思うのですが、トシに関しては研究レベルでは最近ずいぶん変わってきているんですね。相当積極的で知性と感性にあふれていたということが分かりだして、新しい手記が発見されたりとか、研究者でいうと山根知子さんを中心にトシ研究が行われていて、特に日本女子大側の諸資料、日本女子大で受けた教育の中でいろいろキリスト教のことを学んだり、またインドのタゴールのことを学んだりして、賢治のキリスト教に関する知識とかタゴールに関する知識というのは、実は相当トシ経由で、トシが東京の最新の情報をいろいろ賢治に教えていたという側面も最近注目されてきているところだと思います。
小原委員	私も若い時にキリスト教を勉強しましたが、賢治はキリスト教にも関わる部分があってトシさんがその影響を与えたというのは今初めて知りました。ちょっと勉強してみたいと思います。

木村会長	<p>ほかにありますか。</p> <p>(声なし)</p> <p>それでは、本件について承認することとしてよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」の声あり)</p> <p>ありがとうございました。本件は承認されました。議事として予定しておりました案件は以上となります。次第の5 その他とありますが、事務局から何かありますか。</p>
佐々木副館長	<p>特にございません。</p>
木村会長	<p>委員の皆さまから何かありますか。</p> <p>(声なし)</p> <p>無いようですので、以降は事務局をお願いいたします。</p>
佐々木副館長	<p>木村会長、委員の皆様、ありがとうございました。本日いただいたご意見は今後の宮沢賢治イーハトーブ館の運営に活かしてまいります。今後ともよろしくをお願いいたします。それでは、以上をもちまして、宮沢賢治イーハトーブ館運営審議会を閉会いたします。</p>